

◇ 国語

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○各教材の「広がる言葉」で文章中の語彙がまとめられている。その活用として様々な語彙に触れて語感を磨くために、巻末に「言葉を広げよう」が設定されている。</p> <p>○話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの各教材の学習のポイントが「言葉の力」として明示され、3年間で系統的に積み上がるよう具体的な言語活動が設定されている。</p>
三省堂	<p>○各教材の「語彙を豊かに」では、理解できる語句と使える語句の量を増やし、語感を磨くために、教材に関連した語彙が取り上げられている。</p> <p>○話すこと・聞くことについては、話し合いを効果的にするために、各学年の第1単元に「グループディスカッション」の言語活動が設定されている。</p>
教育出版	<p>○「理解に役立つ言葉」では、生活に生きて働く言葉が学年ごとにまとめられ、語彙や表現を豊かにできるよう種別に整理されている。</p> <p>○話すこと・聞くこと、書くことについては、各教材での学習の重点が提示され、生徒が主体的に表現するための言語活動が設定されている。</p>
光村図書出版	<p>○「語彙を豊かに」では、思考や表現の助けとなる語句の意味を示したり、語の広がりを表したりする言葉が学年ごとに系統的にまとめられている。</p> <p>○話すこと・聞くことについては、主体的に聞く力を重視した言語活動が3年間を通して設定され、書くことについては、情報化社会に対応したテーマ・文種が複数設定されている。</p>
その他の主な意見	
<p>・小学校との接続、連携ということで、1年生の教科書を中心に気がついたことや感想を述べる。東京書籍は、「学習を始める前に」ということで、どのように進めていくか基本的な流れが掲載されていた。三省堂は、小学校で学習した読解の基礎や基本と言われている部分を確認しながら進めていく教材が載っていた。教育出版は、「文学入門」という形で文学に親しむというような工夫がされていたと思った。光村図書出版は、「言葉に出会うために」ということで、小学校で習ったことを確認しながら進めていくような内容が掲載されていた。</p> <p>・中学校は今まで光村図書出版を使っているが、教科書を見た感じでは、資料が増えて理解につながりやすいということを感じた。単元の構成の最後のまとめに向かって授業が流れるような、単元の配列が授業に使いやすい順になっていると思った。東京書籍についても、教材として分かりやすく、親しみやすい編集になっているというような印象を受けた。</p> <p>・語彙を豊かにするための題材として、各者工夫や配慮がされている面もあると感じた。東京書籍では、各教材で文章中の語彙がまとめられている。教育出版では、3年間で学ぶ大切な言葉が作品にまとめられていると感じた。三省堂と光村図書出版のほうでは、思考や表現の助けとなる言葉が学年ごとに系統的にまとめられていたのが印象的だった。</p> <p>・小学校から中学校へのつながりという点で、1年生の教科書を見て、音読をして古典の世界を感じ取って、もの見方や感じ方、考え方などを捉える教材が良いのではないかと思った。三省堂や教育出版、光村図書出版は、そのような構成になっているので、大変親しみやすいというふうに感じた。</p> <p>・各者とも主体的に学習に取り組めるよう考えられた構成になっていたと思った。東京書籍は、「学びの扉」で付けたい力が示されていることで学習意欲が高められるように感じた。三省堂は、「学びの道しるべ」に学習の流れが示されており、振り返りができるように構成されていたと思う。教育出版は、「学びナビ」が設けられて、内容をよく深く理解し、知るための手だてが示されていたと思った。光村図書出版では、教材に続き、手引きとなる「学習」、主体的に学習に取り組めるよう流れが示されていたように感じた。各者それぞれ工夫されているが、生徒にとってどのような構成が学習しやすいかを考えていく必要があると思う。</p> <p>・「思考力・判断力・表現力等」についても各者大変工夫されていたと思った。光村図書出版は、「思考の地図」というコーナーが、巻頭の折り込みにそれがあって、生徒の目につきやすいため、必要に応じてすぐに確認できると感じた。東京書籍は、「学びの扉」が随所に掲載されている点が生徒の学びにつながりやすいと感じた。</p>	

◇書写

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	○単元のねらいを焦点化するために、「書写のかぎ」が学年段階に応じて配置されている。 ○本のポップ制作や職場訪問の礼状作成等、国語や他教科との関連を図った学習活動や、のし袋や入学願書の書き方等の生活で扱う書式例が、「生活に広げよう」や「書写活用ブック」に掲載されている。
三省堂	○「書き方を学ぼう一覧」では、具体的な字形例と共に習得すべき書き方のコツが言葉と図で示されている。 ○巻末「資料編」の「日常の書式」には、宛名の書き方、時候の挨拶、手紙の構成等を学ぶ題材が掲載されている。
教育出版	○行書特有の穂先の動きや筆の運びがわかりやすいように、二色の薄墨による写真や解説文が掲載されている。 ○巻末の「書式の教室」では、中学校生活や社会生活に必要な手紙、包み紙、エアメール等の書き方が掲載されている。
光村図書出版	○教材ごとに、学習の見通しを持てるように「学習の進め方」が示されると共に、学習のポイントが一目で分かる「学習の窓」が設定されている。 ○「日常に役立つ書式」では、書写の授業で学習したことを日常生活に生かせるように、手紙・送り状・原稿用紙等の書式が整理して示されている。
その他の主な意見	
<p>・4者とも姿勢や筆記具の持ち方が非常に丁寧に示していると感じた。鉛筆の持ち方や筆の持ち方については小学校から指導しているが、中学校1年生の段階でもう一度再確認したいと感じているので、大変好感を持った。東京書籍と光村図書出版では、特に姿勢についても気をつけた内容についてのチェック欄があり、生徒たちが確認しやすいのではないかと感じた。三省堂は、毛筆と硬筆の姿勢の違いについても示されており、確認するのに役立つのではないかと感じた。</p> <p>・毛筆の手本の掲載の仕方について、各者で特徴があったと感じた。東京書籍と三省堂は見開きの左側のページのほうに、教育出版は右側、光村図書出版については見開きの4ページ、さらに半紙大の手本がついていた。それぞれの良さが考えられるが、生徒の机の限られたスペースの中で学習するにあたって、使いやすさ、分かりやすさも重要になってくるのではないかと感じた。</p> <p>・毛筆の筆遣いについて、色を離れた薄い部分と濃い部分があって、どこに力加減を入れたらいいかがよく分かるような、動きが分かるつくりだった。指導するときには、「ここをグッと書く」、「スーッとやる」、といったように授業を進めている。東京書籍と光村図書出版は、筆を使うときに、トンと置いてスーッと引くというような音が書かれていて非常に親しみやすいし、小学校でやっていることとつながると感じた。</p> <p>・どの発行者も、文字を書くということを通して主体的に学ぼうという意識を感じるように構成されていると感じた。巻頭に学習の進め方が示されている。自ら課題を見つけて、その課題を考えながら毛筆や硬筆で書いて確かめ、学習したことを生活の場に生かしていこうという流れを、どの教科書からも感じた。示し方が分かりやすくて、その課題を意識しやすいと感じたものは、東京書籍、教育出版、光村図書出版、と感じた。「見つけよう」や「考えよう」というコラムで、自ら課題を見つけたら、考えたりすることにつながりやすい構成だと思った。</p> <p>・実際の生活、日常生活との関連ということで、各者大変工夫されていた。例えば、はがきの宛名、お礼状の書き方、荷物の送り状や入学願書など、様々な書式の書き方について記載があった。中学校では、職場体験のお礼状や高校入試等に活用できるのではないかと。東京書籍は様々な書式がまとめられている書写活用ブックがあり、新聞やリーフレットなどの書き方も掲載されているので、他教科の学習にも役立つのではないかと。</p> <p>・国語と書写との発行者が異なっている中で授業を進めているけれども大きな問題はない。</p>	

◇社会（地理的分野）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○多面的・多角的に学習ができるように、学習内容を深めたり、広げたり、異なる視点でとらえたりするページ「もっと地理」が設けられている。</p> <p>○他者との協働を通じて、思考力・判断力・表現力が高められるよう、章末に小集団の参加型学習「みんなでチャレンジ」コーナーが設けられている。</p>
教育出版	<p>○「読み解こう」のコーナーを設け、様々な資料を具体的に読み取ることで、多面的・多角的に考察する学習活動が重視されている。</p> <p>○個人やグループで学びを深めることができるように、世界の各州や日本の各地方の事例をもとに、今日的な課題に迫る「特設ページ」が設けられている。</p>
帝国書院	<p>○各章(節)の冒頭にある「章(節)の問い」の答えへの論理的な説明や、多面的・多角的な考察に取り組めるよう、「章(説)の学習を振り返ろう」のページが設定されている。</p> <p>○SDGsの意義への理解を涵養させるために、環境・防災・共生を主題とした「未来に向けて」、「地球の在り方を考える」が設けられている。</p>
日本文教出版	<p>○多面的・多角的な思考が高まるよう、教材・資料を用意し、資料を用いた活動をうながし、補助するコーナーが設けられている。</p> <p>○世界や日本の様々な地理的事象をより身近にとらえたり、地理的な技能を身に付けたりすることができるよう「自由研究」、「スキルUPコーナー」が設定されている。</p>
その他の主な意見	
<p>・小中接続という部分では、小学校の場合は復習内容を振り返りながら進めて新しいところに入っていく、進めていくという部分を見ると、どこの会社もそういった部分が工夫されていると思った。学習事項別の課題が設定されていたり、最終的に、終わりのほうには学習内容を確認する部分があったりということで、教科書が、1つの単元が流れになって学びやすくなっている工夫があると感じた。今まで習ったことをもとにして、さらに発展するような課題が設定され、さらに深めていく構成になっている工夫がどの発行者もなされていると感じた。</p> <p>・神奈川県に関する記述、あるいは写真やグラフ、地図など、どの各者でも取り上げられていることは生徒にとって興味、関心を引く、あるいは身近であると感じた。横浜市や川崎市、大都市相模原市などはどの者でも確認することができた。帝国書院と東京書籍、この中には厚木、平塚、秦野など近隣の地名も掲載され、より身近に感じることができると感じた。神奈川県調査結果に一覧があるが、帝国書院は神奈川県の資料がやや多いように感じた。</p> <p>・どの者も見開き2ページにまとめられていた。世界と日本、世界の様々な地域、日本の様々な地域とで構成されており、最後には、今日的な課題について、地域の在り方を設定していた。特に帝国書院では、SDGsの意義への理解ということで、環境、防災、共生を主題とした章となっていることがとても印象的だった。日本文教出版では、京都市を例に挙げており、伊勢原市は修学旅行で京都を訪れるので、生徒にとっては身近と感じた。教育出版では、農村や都市など様々な地域についての課題と、それから地域の在り方がまとめられていた。東京書籍では、身近な課題を見つけるところから始まり、課題を見つけ、発表するまでの流れがとても分かりやすくまとめられていたという印象だった。</p> <p>・どの発行者も豊富な資料、たくさんあり、それをもとに生活や文化、環境、歴史的背景などから様々な事象についての関連づけながら学習ができるようになっていたと感じた。東京書籍では、歴史、公民分野と同じ資料が掲載されていたので、より関連づけることができると感じた。どの発行者も歴史、公民分野との関連が分かるようにマークがついていたり、そのコーナーが設けられていたりなどしていた。帝国書院と日本文教出版では、小学校の歴史、公民分野との関連が示されていた。</p> <p>・写真やグラフ、地図等の資料から内容を読み取って情報活用能力を育成する、これは非常に重要な観点だと思った。どの者もこの手法が示されていると思った。教育出版では「地理の技」で地図やグラフの使い方について触れており、使いやすいと思った。帝国書院についても、「技能を磨く」という掲載があり、それが使いやすいと感じた。中でも、「ハザードマップの読み方」、「防災情報の入手の仕方」という点では、やはり生徒が大人になって市民生活を営む上で重要な視点であるし、培った情報活用能力を大人になっても生かすという点では、分かりやすく示されていると感じた。</p> <p>・どの者も地域調査のところで体験的な活動が取り入れられていた。東京書籍では、地域についてテレビ局のディレクターになったつもりで調べ、考えを発展するというような形で、大きな単元構成になって、ボリューム感を持った活動が補償されていると感じた。日本文教出版では、工場建設のシミュレーションというコーナーがあって、北半島のどこに工場を作るかというようなテーマで、地理的な条件からそれを考えていく。臨場感を持った活動に取り組めるような工夫がされていた。</p> <p>・「深めよう」のところで、減災について書かれていて、子供もニュースを見ていて興味を持っているところがあった。実際の授業で、そういった集中豪雨とかそういうのがある中で、教科書だけでなく、実際にニュースを見ている中で教科の中でも深めて考えていくことができれば、親としてもそういう政治、経済、社会問題に対して子供ともまたより深く話ができるかと思った。</p>	

◇社会（歴史的分野）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○多面的・多角的に学習する場面においては、「分野関連マーク」が付され、3分野共通の題材や資料を扱う学習が設けられている。</p> <p>○単元全体を貫く「探究課題」の設定及び解決、「まとめの活動」等の学習活動を通して課題を追究することができるよう構成されている。</p>
教育出版	<p>○説明や話し合い等の表現活動につながる「表現」のコーナーが学習課題と対応して設けられている。</p> <p>○「学習のまとめと表現」では、時代の特色を自分の言葉で説明する活動が取り入れられ、深い学びになるよう構成されている。</p>
帝国書院	<p>○主体的・対話的で深い学びを実現するために、「多面的・多角的に考えてみよう」及び「多面的・多角的に構想する 未来に向けて」が設けられている。</p> <p>○「章の学習を振り返ろう」では、論理的に説明し、自分の考えを述べるような活動が設定されている。</p>
山川出版	<p>○学んだことを活用し思考することができるように各ページの末尾に「ステップアップ」が設けられている。</p> <p>○「まとめ」では時期・推移・因果関係・差異等に注目させるために、章を貫いた発問が設定されている。</p>
日本文教出版	<p>○歴史学習の幅を広げ、日本の神話や現代との関わり等を解説し、考察する「歴史を掘り下げる」が設定されている。</p> <p>○学習課題を追究、解決する手助けとなるよう「チャレンジ歴史」、「アクティビティ」が提示されている。</p>
育鵬社	<p>○本文を多角的な視点で詳しく解説した「歴史ビュー」や、歴史学習の幅を広げる「歴史ズームイン」が設定されている。</p> <p>○「学習のまとめ」では、学習した内容を活用し、各時代の歴史を大観しながら課題を追究することができるように構成されている。</p>
学び舎	<p>○歴史のできごとの相互の関連をつかんで思考を深めるために、章の冒頭に「章の扉」が設定されている。</p> <p>○「章をふりかえる」、「部の学習のまとめ」では、時代の特色と時代の転換を振り返り、大観できるように設定されている。</p>

その他の主な意見

・小学校では、歴史の学習は6年生で行う。中学校に行って、さらに深く意義を感じられるような学習に移っていくと思う。各教科書ともその接続ということで、第1章には、歴史の流れを捉えるため、小学校の学習との接続を図る記載があり工夫されていると感じた。教育出版では、すごろくで時代の流れを意識させながら、時代の特徴や登場人物を提示していた。東京書籍や育鵬社、日本文教出版では、グラフを多く使って、小学校で学んだ主な出来事や人物について思い出させるような工夫があった。歴史学習の導入として、子供たちの興味、関心を高める上で良いのではないか。

・各者の導入では、生徒にとって分かりやすく、理解が深まるような構成上の工夫を凝らしていたと感じた。どの発行者にも、導入では年代とか、あるいは時代区分などについての学習するページが設けられて、しかも見開き2ページでまとめられていた。特に東京書籍や帝国書院では、生徒にとって分かりやすい学習課題を設定され、調べ方やまとめ方が丁寧に書かれている印象を受けた。

・学び舎についてはA4判で非常に写真が大きく掲載されていて、特徴的であった。ほかの6者についても、AB判で写真や図は同様に大きく掲載されているので非常に見やすく、生徒たちもこれを見て印象にも残り、非常に見やすい印象を感じた。

・生徒が歴史を学習していく中で、歴史の前後関係ですとか流れを掴ませるために、年表を活用していくことはとても大事であると考えている。日本文教出版と帝国書院は、右側のページの右端に時代名を記した年表があった。教育出版は、左ページの学習課題の上に、東京書籍は、見開き1ページの左下に、日本文教出版と帝国書院は右ページの右端に、教育出版は各章の初めにこれから学習する時代として位置づけていた。

・伝統や文化という点では、山川出版社では「地域からのアプローチ」というコーナーで、身近な地域から学んでいくということで、地図や資料で示して、各時代に関連する課題を提示していたことが学習の進め方としてよいと思った。東京書籍は、絵画資料、屏風絵、浮世絵が資料から発見というコーナーにまとめてあり、絵と現在の写真を比較し、どのように変わったかが具体的に示されていて、分かりやすい印象だった。

・生徒にとって分かりやすく、理解が深まる構成上の工夫として、どの発行者も見開き2ページを1つのテーマで構成している、最初に学習課題があり、右下のほうには振り返りのコーナーという形で多くの教科書に掲載していた。まとめや考えを深めるという点では、特に東京書籍、帝国書院は、学習課題に対して確認することや説明することをとても分かりやすく、しかも具体的に提示しており、非常に的を絞った構成であると感じた。振り返りのコーナーでは、知識、理解の定着を促す学習の確認、説明等の言語活動を行う応用の2ステップになっているのが教育出版、帝国書院、日本文教出版に見られた。学び舎は、大きな時代のまとめとして部ごとのまとめがあるなど、どの発行者もまとめという点で非常に工夫されていた。帝国書院の歴史の「タイムトラベル」のページには、イラストで現代と分かりやすく比較して、生徒が時代背景をつかめるイメージで捉えることができると感じた。

・帝国書院では、「タイムトラベル」というようなコーナーで、小学校で学習したことや既習事項の橋渡しとして活用でき、時代のつながりをつかみやすい工夫であったと思った。東京書籍では、見開き2ページで各学習内容や学習課題、振り返り、「チェック」と「トライ」が掲載されていたので、生徒にとっては、学習の見通しがもちやすいと感じた。年表も時代によって分かりやすく工夫されており、とても見やすい工夫である感じた。

◇社会（公民的分野）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○より深い思考・判断ができるように、現代社会の見方・考え方を活用して取り組む場面に「見方・考え方」のコーナーが設けられたり、マークが示されたりしている。</p> <p>○各単元の終結部には、思考ツールを使って学習課題を整理しながら、単元を貫く「探究課題」を無理なく解決できるように、「まとめの活動」が設けられている。</p>
教育出版社	<p>○各章の導入における「学習のはじめに」では、その章の学習において着目すべき見方・考え方が示されている。</p> <p>○各章末に設けられた「学習のまとめと表現」のページでは、各章で学んだ内容を振り返って整理したり、学習したことを活用して考察し、構想・表現したりする言語活動が取り入れられている。</p>
帝国書院	<p>○「公民的分野の学習の全体像を見通そう」の中で各章で働かせる見方・考え方や小学校、地理的分野、歴史的分野との関わりが示されている。</p> <p>○単元を貫く「章の問い」、「節の問い」、各見開きの「学習課題」、「確認しよう」、「説明しよう」というように、生徒の学習過程が構造化され、単元を通して課題解決的な学習ができるようになっている。</p>
日本文教出版	<p>○章末の「学習の整理と活用」に、新聞記事等をもとに、ニュースを見方・考え方を働かせて読み取る場面が設けられている。</p> <p>○習得した知識や見方・考え方を働かせながら、思考力・判断力・表現力等を育成するよう、各単元末に「チャレンジ公民」が設けられている。</p>
自由社	<p>○現代社会の見方・考え方を働かせて考えを深めることができるように、「アクティブに深めよう」というコーナーが設けられている。</p> <p>○より進んだ課題に挑戦できるよう章末に「学習の発展」や習得した知識から課題解決できるよう「アクティブに深めよう」が設けられている。</p>
育鵬社	<p>○小学校の学習内容を想起することができるように、各章の導入で小学校で学んだ内容を資料等で確認するページが設定されている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進をサポートする「学習を深めよう」「やってみよう」「TRY」等の言語活動が設けられている。</p>

その他の主な意見

・公民で使う言葉は、政治や経済的な言葉が多く含まれていて、生徒にとって難しく感じるのではないかと想像する。日頃の生活でもなじみが薄いものも多々教科書の中にも出てくる。基礎的・基本的な知識の定着のために、東京書籍、日本文教出版、自由社、育鵬社では、各章のまとめの重要語句が各章にまとめられていた。確認や整理をするときに、生徒たちにとっても非常に見やすく、分かりやすいのではないかと感じた。

・東京書籍では、学習を進めるうえで、「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーを設けて、理解を深める工夫や配慮が見られた。帝国書院では、見開きの左ページに学習課題が設定されていて、右ページに「確認しよう」、「説明しよう」を設けていて、学習の理解を深めていると感じた。教育出版では、章末に「学習のまとめと表現」というコーナーでは、章の学習内容について考えたことをクラスメイトと意見交換をする活動が設定されている。

・地理や歴史との関連性という点では、東京書籍は、分野関連マークで関連を示していた。育鵬社では地理、歴史で学んだことをマークで示して紹介している。帝国書院は、「地理、歴史をふりかえる」で学習内容を意識的に振り返ることができるように配慮されている。日本文教出版では、「連携コーナー」で、教育出版では、「関連」で小学校の社会科や地理・歴史的分野とのつながりが示されていたと思った。

・各者とも教科書の第1章や第1に入るまでの序章の中で、社会的な見方・考え方の基礎として具体的な事例を挙げて、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」等の概念について取り上げていた。東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社、自由社では、生徒にとって身近な問題を取り上げ、自分たちで考え、話し合いながら理解させる形式が作られていた。なかでも東京書籍の「まとめの活動」や日本文教出版の「学習の整理と活用」では、学習したことについて継続、発展できるような課題が設定されていて、繰り返し学習できるような構造になっていると感じた。

・新学習指導要領で重点に置かれている主体的、対話的で深い学びという観点では、東京書籍では、「みんなでチャレンジ」の「多数決で考えよう」で、多数決が正しい決め方なのかをグループで話し合うという活動を取り入れていた。身近な問題としても捉えやすい課題であったと思った。また、持続可能な社会を実現するために、カードや表を使って整理する活動を取り入れていることが生徒にとって取り組みやすい工夫であると思った。教育出版では、「国際社会に生きる私たち」の中で、持続可能性を妨げる様々な課題について投げかけており、国際社会の平和の実現に向けて、発展途上国は環境保護と経済発展においてどちらを優先すべきなのかということについて、お互いの考えを深め合う活動を取り入れていた。日本文教出版では、地球温暖化に対する政策について考えようという学習設定があり、資料の収集と読み取りをもとに考察を進めて、再生可能エネルギーをテーマにして課題を整理し、発表するというような一連の学習を取り入れている点がよかった。帝国書院では、自分が住むまちづくり、よりよいまちにする方法ということをKJ法的手法でグループの意見をまとめていって、予算をそこで立ててみようといったような活動を設定していた。臨場感のある活動であったと思う。

◇社会（地図）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○日本は550万分の1全体図と、8地方ごとに100万分の1全体図、主要都市を中心とした50万分の1の拡大図、各地方ごとに主題図で構成されている。巻末に地名、資料索引が系統的に配置されている。</p> <p>○世界は全体図と州ごとの全体図で構成され欧州と北米は日本と同じ縮尺の1600万分の1の同縮尺で構成されている。各州ごとに主題図で構成されている。索引は、世界の地名、資料索引が系統的に配置されている。</p>
帝国書院	<p>○日本は400万分の1全体図と8地方区分の100万分の1の全体図、主要都市ごとに50万分の1の拡大図で構成されている。統計資料を基にした主題図、索引が系統的に配置されている。</p> <p>○世界は全体図と州ごとの全体図と鳥瞰図、イラスト資料、気候等の主題図や索引が系統的に配置されている。また、州の全体図には同緯度・同縮尺の日本が配置されている。</p>
その他の主な意見	
<p>・生徒が学習するにあたって、地図というのは見やすさがとても大切な要素だと思う。帝国書院、東京書籍ともに写真とかグラフや図がとても大きく使用されていたので、見やすく、また使いやすいと思った。帝国書院は、A判で、世界の各州についての鳥瞰図が掲載されていることで、位置や空間的な広がりをつえやすかったと思った。地図は明るい色使いがとても良かったと感じた。地図上での文字が見やすく、読みやすくなっていること、また、高低差、標高とかがはっきり分かること、メリハリをつけた鮮明な色分けをしていると思った。日本の地形の特徴がとても掴みやすかったと感じた。東京書籍は、AB判で、写真や絵が多く配置されていて、写真には、見出しのほかに補足的な説明が加えられ、地域的な特色をつえやすかったと感じた。</p> <p>・歴史や公民にも対応できるように、帝国書院、東京書籍ともに歴史的分野、公民的分野の学習に連携した地図や資料が掲載されていた。帝国書院のほうは、様々な宗教や霞ヶ関等の地図や資料が掲載されていた。東京書籍は、「歴史の舞台九州地方」や「ピックアップ東京」などに、地図、資料が掲載されていて、こちらが歴史、公民との関連づけが分かりやすいようマークが付いていた。世界の気候、海流、世界各地の平均気温、降水量など、学習内容と関連する資料が「ジャンプ」という形で見やすく示されていた、生徒がすぐ調べられるように記されていた。</p> <p>・帝国書院では、「地図活用」という枠の中で、トレーシングペーパーで写し取る地図を使った調査方法を体験する活動が掲載されているのはよいと思った。東京書籍は、「みんなでチャレンジ」で、人口ピラミッドを完成させる活動が掲載されていて、子供たちが興味を持てる活動になると思う。</p> <p>・子供たちが主体的、自主的に学ぶ資料ということでこの地図を見た。帝国書院は、例えばこのページを開くと、この中に地図活用というような問いかけ、学習課題を示していて、子供たちが主体的に学ぶというヒントが示されている。具体的な活動を通して、地図の活用する能力を培っていくという工夫がされていると感じた。東京書籍も同じように、巻頭のほうにテーマ、資料が設けられていて、今、どんなことが課題、問題になっているのか、環境問題、日本各地の資料図の中で防災などをテーマにした資料が盛り込まれていて、今日的な話題を学ぶ資料になっていると感じた。</p>	

◇数学

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ○「章とびら」では、1コマの場면을提示して、生徒の疑問を引き出し、章の学習を通して解決していけるように構成されている。 ○「数学の自由研究」では、生徒自ら意欲的に取り組める課題や、日常生活や社会、他教科の学習に関わる課題が提示されている。
大日本図書	<ul style="list-style-type: none"> ○章末にある「ふり返ろう」では学んだことを確認するために評価の観点を右上に示し、自己評価できるように設定されている。 ○「活用・探究」では、数学の世界を広げるように、日常生活や社会、他教科の学習と関連付けた課題が設定されている。
学校図書	<ul style="list-style-type: none"> ○各領域ごとに前学年までの「ふりかえり」のページが設けられ、本文中には、関連する既習内容を確認するために「ふりかえり」の側注が設けられている。 ○「数学的活動」のページでは、学習過程のイメージを具現化し、1つの課題に対する問題発見から解決までの中のどのような過程で学習しているかが示されている。
教育出版	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の最初に既習内容を確認する問題があり、最後に確認しながら章末問題に取り組めるように「学習のまとめ」が設けられている。 ○「数学の広場」では、学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に活用したりするように、生徒が興味・関心を抱く課題や数学に関連する話題が提示されている。
新興出版社啓林館	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容の定着に向け、巻末には「もっと練習しよう」が設けられている。章の学習とのつながりが分かるよう関連問題のページが示されている。 ○図、表、式の説明に際してICTを活用できる場面では二次元コードが掲載されている。
教研出版	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容のつながりに配慮し、各章の始めに「ふりかえり」としてその章の内容に関する既習事項と共に確認問題がまとめられている。 ○「Q」では、新たな内容を学ぶための準備をしたり、学んだことの理解を深めたりできるような問題が設定されている。
日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた学習ができるよう、既習内容を確認する「確かめ」や間違えやすい問題の意識付けのための「まちがいの例」が記載されていると共に、やや難易度の高い問題「チャレンジ」が設けられている。 ○「学び合おう」では、自分で考えたことをもとに話し合い、学習を振り返ることで学びを深められるように問題解決型の授業展開が示されている。

その他の主な意見

・小学校との接続、連携という点でいくつか述べる。どの発行者も小学校で学習したことを振り返りながら、特に1年生の教科書では進めていくことができるようになっていたと思う。かけ算九九を導入しているのが東京書籍。かけ算は小学校の算数ではかなりウエイトを占めている。算数から数学になってもそんなに難しくないのかなといった感覚を子供たちは持つことができるのではないかと思った。教科書によっては、活用や発展が高校へつながるような工夫をする発行者もあった。

・数学は繰り返し問題を解くことが非常に大切になってくると思う。どの発行者も巻末に補充問題をしっかりと用意していて、練習問題がある程度用意されていると、それぞれ進み具合が早くても遅くても自分の個に応じて多様な問題をこなしていくことができると思った。東京書籍は、学習のまとまりごとに学習の目当てが示されて、問いには例題、その例題に準じた類題のようなマークがついていて、同じような問題があり、図の見やすさもあって、非常に生徒の学びやすさにつながっていると思う。学校図書は、既習事項などを示した「振り返り」というコーナー、間違いやすい例を取り上げていたように感じた。大日本図書は、学習の進度、習熟度に応じて個に応じて「プラスワン」というコーナーとして設けられ、巻末に「力を伸ばそう」、巻末に「補充問題」、「総合問題」というものが設けられていた。

・苦手意識のあるお子さんにとっては、体験を通して学ぶということがとても重要になってくると思う。良かったと実感できるような経験の保証という点から、どの発行者も取り組める工夫がある。特に空間図形という分野で、実際に立体的に組み立てて目で見えるようにすることが大切だと思う。第1学年の様々な空間図形の中では付録を使って確認できるようになっていた。東京書籍、教育出版では、単純なものから複雑な図形まで豊富なものが準備されていたり、日本文教出版では、展開図の各面に番号が書かれていたりして、苦手なお子さんにも分かりやすい工夫がされていると思った。

・今回の学習指導要領の改訂では主体的・対話的な深い学びが求められている。各者にわたって、そういった学習活動の実施に向けた工夫や配慮がされていると思った。学校での数学の授業では、時々、生徒から「数学は世の中に出てどう役に立つの」といったような素朴な質問が出されることがある。教科書などを通して日常生活に関わる数学が紹介できると、興味だけではなくて学ぶ必然性や苦手でもやらなければならないという気持ちが育まれると思う。東京書籍では、全体的に中学生が興味を持ちそうな話題が多いように感じた。「深い学び」の活動のコーナーでは、話し合っって課題解決を行う活動がどの学年も楽しそうだった。新興出版社啓林館の2年生では、誤答例について説明させる課題もよいと思った。なぜ間違っているのかについて説明する能力というのは、やはり数学的な思考力につながるものと感じた。教育出版の「学習するにあたって」においても、話し合うときに大事にする内容が示されている点もよい。教科横断的な学習の工夫について、数研出版は「探究ノート」が別冊で用意されていて使いやすかったと感じた。それぞれいろいろな特徴があり、実社会や実生活で使える内容が織り込まれているということは非常によいと思う。

・振り返りという活動も大切である。東京書籍は、先ほども話題になった「深い学び」のコーナーで「問題把握」、「見通し」、「解決」、「振り返り」といった振り返り活動だけではなくて、学習の一連の流れがはっきり示されていたので、使いやすかったと思った。教育出版は、巻末の「学びのマップ」では、本学年の内容との系統性について示されているとともに、前学年までに学習した主要内容が領域ごとに分けて一覧として掲載されていた。学習を振り返ったり、進めたりするのに分かりやすい。学校図書は、各章の終わりにある「できるようになったこと」では、学習内容の振り返りと習熟度の自己評価ができるように学習の振り返りの観点を示されていた。日本図書は、学習を振り返って分かったことや、さらに考えを深めたこと、調べたことを書くなど、分かりやすく示されていると思った。

・授業の最初に何をやるのか目当てが明示されていると生徒も見通しが立てやすいのでよい。例えば、東京書籍や大日本図書、日本文教出版では目当てが明示されている。また、学校図書と数研出版には目標ということで記されている。目当てが明確になっていることで、教員としては1時間の授業の進め方や生徒の活動の仕方のイメージが持ちやすく、授業の組み立てがしやすくなるのではないかと感じる。生徒もゴールを把握しやすいので、目当てが示されているということは大切であると思う。

◇理科

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○日常生活や社会との関連と学習内容の理解を深められるように「つながる科学」と「どこでも科学」が掲載されている。</p> <p>○操作については、「基礎操作」で実験器具の使い方や注意事項が記述され、既習の内容は巻末にまとめられている。</p>
大日本図書	<p>○興味・関心に応じ学びを広げられるよう「くらしの中の理科」と「Science Press」では、日常生活と学習との関連や学習内容に関わる科学の話題が掲載されている。</p> <p>○操作については、本文中の観察・実験の中や巻末に「基本操作」として実験器具の使い方やグラフの書き方などがまとめられている。</p>
学校図書	<p>○日常生活や社会との関連と学習内容の理解を深められるように、「サイエンスカフェ」が掲載されている。</p> <p>○操作については、本文中の「基本操作」に記載されると共に、1年巻末「実験器具の操作」で実験器具の使い方やグラフのかき方等について、まとめられている。</p>
教育出版	<p>○「ハローサイエンス」では、科学の話題が紹介されている。</p> <p>○実験器具の使い方やグラフのかき方等について「基礎技能」として、本文中や巻末にまとめられている。</p>
新興出版社啓林館	<p>○実社会・実生活との関連から、学習の有用性・科学の魅力が伝わるように、「活用してみよう」、「ラボ」、「ひろがる世界」が設定されている。</p> <p>○基本的な実験操作や器具の使い方、表やグラフのかき方が、本文中や単元の始めにある「実験のスキル」や「サイエンス資料」にまとめられている。</p>

その他の主な意見

・写真や資料など、どの発行者でも豊富に使われていて、特に身近な私たちの住む神奈川に関するものも多く掲載されていた。神奈川県調査結果では、特に大日本図書は神奈川の話が多かったように感じた。生命の星・地球博物館や火山の例に箱根の写真が使われ大変身近でよいと感じた。

・実社会とか実生活に結びついているということが大きく理科は関わってくると思う。大日本図書では、例えば、食品からの気体発生についてや気象と農業の関係、プラスチックリサイクルなど、実社会に結びつくような話題が「暮らしの中の理科」というコーナーで取り上げられていた。東京書籍では生活排水、学校図書では運動エネルギー場面でのスポーツ運動エネルギー換算について、教育出版では錆びたねじについて、新興出版社啓林館では体内の塩酸について分かりやすく紹介されていた。

・観察・実験のときに使用する実験器具について、小学校で使用していなかった器具も中学校ではたくさん扱われている。使い方や基本操作などについてそれがどの発行者も非常によくまとめられていると思った。巻末にまとめられていたものや、実験ごとにまとめられていたものがあったので、使用する際に、注意して生徒も使えるのではないかなと思った。特に大日本図書では、基本的な操作について図や写真が非常に多く、はっきりと示されているので分かりやすかった。学校図書では、注意書きが記載されており、生徒自身が意識しながら使用することができるのではないかと感じた。

・科学的な思考・判断力という点については、それぞれいろいろな工夫をされていたと思う。探究のプロセスなどについては明確に記され、観察・実験を通して、考察していくという構成に各者なっていた。・教育出版と新興出版社啓林館では、「私のレポート」とレポートの書き方についてまとめてある部分があり分かりやすかった。新興出版社啓林館には、生徒が苦手なグラフの作成や作図といった目で見えない部分をモデル図にして示してあり、分かりやすかった。大日本図書は単元の最後に読解力問題として、少し問題は難しそうだけれども今まで習ったことを使いながら読み解いていくという問題があった。そういった部分は思考力・判断力という部分では特徴的だったと思う。

・体験的な学習、体験的な活動を通して理解を深めるという工夫として、東京書籍はコンニャクを使って地震を感じる例があった。身近な素材を使っていた。教育出版では、目に見えない原子のモデルカードが付録であり、組み合わせて粒子を作るなどの体験的なものができることがよいと思った。大日本図書ではスピーカー作り、学校図書ではクリップモーター作りを通して、生徒が苦手とする電流と磁界の原理を体験できるようになっていた。目で見えないものというものを作りながら、電流や磁界、その向きを考えることができるということ、原理や法則を活用しながら考えることができると思った。

・主体的・対話的で深い学びの実現ということが大切になってくると思うが、年齢が上がるにつれて、理系は苦手だなという意識を持つ生徒もいる。そういう生徒も親しみやすい活動場面の設定の工夫が各者見受けられた。東京書籍では、発表の方法をイメージできるように、漫画の解説欄というのが取り入れられている。大日本図書や教育出版では、話し合い活動を取り入れる場面で、キャラクターの話が提示され、分かりやすい工夫だと思った。どの発行者も話し合う場面の設定を行い、様々な意見や考えを聞くことができるような工夫がされている。

・科学的に探究するということについては、振り返る活動も必要になってくると思う。振り返って考えることができるように工夫されている点として、東京書籍では章全体の振り返り、大日本図書では「振り返ろう」というマーク、新興出版社啓林館では探究の振り返りの中に「ここをしっかり」というように目立つように工夫がされていた。

・理科の教科の多くの特徴として、数値化するような場面が多く、教科の特徴として横断的ということで数学とのつながりが求められる場面、データ処理や法則を使って考えるときに、数学の計算が必要となる場合があり、生徒が苦手意識をもつ場面の一つである。教育出版や学校図書では、特に比例について、教育出版は、単位について分かりやすくコーナーが設けられていた。大日本図書では、光の三原色が美術とつながり、一酸化炭素が保健体育とつながっていく。

・東京書籍においては、技術・家庭科とつながっていたり、新興出版社啓林館では、栄養素が家庭科とつながっていたりするなど、横断的な意味での学習が深められる要素が多くあった。

◇音楽(一般)

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
教育出版	<p>○全学年、「学びのユニット」として、学びのねらい、学習する曲や活動、学びの手掛かりとなるヒント、さらに比較したり深めたりするための曲や活動が系統的に配置されている。主要教材に加え、発展的な学習が行えるように「比べてみよう」や「深めてみよう」が設定されている。</p> <p>○言語活動の充実を図る学習活動を通じて他者と協働し、主体的で対話的な活動が展開できるように「ACTIVE! すすんで学び合おう」や「音のスケッチ」が配置されている。</p>
教育芸術社	<p>○全学年「学習内容」として学習指導要領に示された3つの資質・能力と、それに対応する学習内容や教材が系統的に配置されている。また、「深めよう! 音楽」では、発展的な学習が行えるように、学習の手順やキャラクターの吹き出しによるヒントが示されている。</p> <p>○課題意識をもち、協働しながら学習することで主体的・対話的な学習活動が展開できるように、創作教材「My Melody」が配置されている。</p>
その他の主な意見	
<p>・2者ということで、教育芸術社では、第1学年の冒頭の部分で2曲の歌唱教材、『We'll Find The Way』と『その先へ』という曲で、その作曲者から新しい3年間が始まるよというような内容の新入学生へのメッセージが掲載されている。新しい環境になった生徒に音楽を通してメッセージが載っているということが印象に残っている。教育出版については、第1学年の冒頭が「アニーローリー」という曲のソプラノコーダーの演奏となっている。小学校でソプラノコーダーは学習しているので、小学校と中学校との円滑な接続につながっているのではないかと。</p> <p>・思考力・判断力・表現力等の育成に関して、教育出版については、1つの教材がコンパクトに見開きでまとまっている。さらにそれをほかの教材と比べることによって、比較してその特徴の良さをつかめるというような構成になっていると感じた。教育芸術社は、表現の工夫に関して考え、仲間と意見交換する活動例が示されていて、教材を通じて言語活動や思考力・判断力が育まれる構成になっていると思った。</p> <p>・2者とも主体的、協働的な学びというようなものが図られるように工夫されていて、共通事項と関連づけながら学習を進めていくという工夫が見られた。教育出版では、全学年においても音楽を形づくっている要素が「学びのユニット」ということでまとめられていた。教育芸術社では、全教材で下のほうに音楽を形づくっている要素が明確に示されていたと思う。それぞれ特徴があった。</p> <p>・教育芸術社では、国語科や社会科と関連した平家物語、琵琶法師によって語られて、後世の芸能に影響を与えるというような内容についての掲載があった。教育出版は、「音って何」ということで、理科と関連した音の出る仕組みや音の伝わる速さについての解説が掲載されていた。</p>	

◇音楽(器楽合奏)

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
教育出版	<p>○取り扱う楽器が主に吹く楽器、弾く楽器、打つ楽器に種類分けして記載されている。各教材見開きごと左上に学びのねらいが記載されている。</p> <p>○「何が同じで何が違う？」では、各楽器を比較し、特徴をまとめながら、主体的・協働的な学習がうながされるよう教材が提示されている。</p>
教育芸術社	<p>○取り扱う楽器が主に西洋楽器、和楽器、打楽器の種類順に記載されている。巻末資料では、様々な楽器が7つに分類され、写真で示されている。</p> <p>○「深めよう！音楽」では、グループでの活動を通して、主体的・対話的な学習がうながされると共に、「アンサンブル」では協働しながら学習が進められるような教材が提示されている。</p>
その他の主な意見	
<p>・知識、技能に関わる学習活動だが、教育出版では、リコーダーや和太鼓の演奏についての構えや姿勢について、手元を拡大した写真が掲載され、息の流れについて示されるなど、見やすく分かりやすい工夫がされている。一方、教育芸術社では、ギターや琴における姿勢と構えという項目があり、そこで複数方向から撮影した写真を掲載する工夫があった。体の向きや力の加減、手の使い方について、わかりやすい工夫がされていた。</p> <p>・伝統や文化に関する教育の充実という点では、両者とも篠笛、尺八、琴、三味線、和太鼓と5種類の和楽器から選択できるようになっていた。教育出版では、『さくらさくら』、『荒城の月』、『勸進帳』など、歌唱や鑑賞の学習内容と関連のある教材が掲載されていた。教育芸術社では、導入において、その楽器の伝統的な代表曲がまずは鑑賞教材として紹介されていた。</p> <p>・音楽の特性として、表現及び鑑賞の基礎的な能力を養うために、教育出版では、共通事項である音楽を形づくっている要素の中から旋律、リズム、音色、構成を取り上げて、仲間と意見交換しながら合奏を完成させるという学習が設定されていた。教育芸術社では、共通事項である音楽を形づくっている要素を手がかりに、表現の工夫について考え、対話する学習が設定されていた。</p>	

◇美術

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
開隆堂出版	<p>○折込みページでは、原寸大の図版や美術史年表が示されている。</p> <p>○作品への興味・関心を高めると共に、発想や構想、表現方法の手がかりとなるように「作者の言葉」が設けられている。</p>
光村図書出版	<p>○生徒の実感的な理解を深めるために、図版上のトレーシングペーパーや越前和紙を再現した用紙が綴じこまれている。</p> <p>○表現の題材では、制作の導入として参考作品を造形的な視点で鑑賞できるように「作者の言葉」が設けられている。</p>
日本文教出版	<p>○各巻末の「学びを支える資料」には、鑑賞、技法、色彩の図版や写真がまとめられている。</p> <p>○共通事項である形や色彩、材料等を作品から読み取ることに加えて、全体の感じからの印象や、気付いてほしいことが「造形的な視点」で示されている。</p>
その他の主な意見	
	<p>・各者とも学習指導要領において示された資質・能力の3つの柱で整理されていて、各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がされている。開隆堂出版については、発想や構想の視点として、学習のポイントという形で掲載されているところが特徴的であった。日本文教出版は、作者の言葉として作者の思いが掲載されているところが作品をよりよく理解するということにつながっていくと感じた。各教材の発想や構想、鑑賞に関する目標が示されて、それも思考力・判断力・表現力の育成について、生徒が捉えやすいという工夫が伺えた。</p> <p>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫や配慮についても各者ともそれぞれ工夫が見られた。光村図書出版は、作品を作ったり鑑賞したりするときに、発想を広げるマッピングという活用方法や附箋を利用した話し合いの方法などが掲載されていた。実際の学習活動に生かせると感じた。</p> <p>・生徒の学習上の困難に対して、各者ともに工夫や配慮がなされていた。・光村図書出版は、2人の生徒が表現していく過程について、発想や構想の段階から完成作品までの順序が活動の様子やアイデアスケッチなどの写真や文で示されていた。開隆堂出版は、中学校以上で習う漢字にルビが記載されていた。各ページの図版には番号が示されていたり、安全に関する注意点には注意を促すマークが記載されていたりしていた。</p> <p>・各者とも生徒にとって理解が深まるような構成上の工夫や配慮がされていると感じた。日本文教出版では造形的な視点で物事を捉えるため、「つやつやした感じやかたさなどは、どこから感じるのだろうか。」などの吹き出しの言葉で示されていた。開隆堂出版は、生徒作品とともに、その生徒が表している表現の主題が「作者ことば」として示されていた。また、題材に関連する専門的な用語が「美術の用語」として掲載されており、生徒にとって理解が深まることにつながるのではないかと感じた。光村図書出版でも工夫が見られ、表現題材の学習過程が、2人の生徒が表現の主題をどのようにもち、それを表すためにどのように試行錯誤したのか、写真やアイデアスケッチ、「水たまりに映った青空が美しく見えたので、明るい色で強調して描く。」などの言葉とともに紹介されており、授業展開に活かせるのではないかと感じた。</p>

◇保健体育

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	○生徒が見通しをもって、学習に取り組むことができるよう、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」が学習の流れに沿って配置されている。 ○章末の「章末資料」の中で、防災・安全、環境や多様性といった、現代の諸課題が取り上げられている。
大日本図書	○課題解決的な学習が行えるように、「つかもう」、「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」、「活用して深めよう」の順で構成されている。 ○既習内容を活用して、日常生活や将来にわたっての問題について考えることができるよう、章末の「学びを活かそう」が設定されている。
大修館書店	○学習課題が「きょうの学習」に示され、その時間で学ぶべき内容が明確にされると共に、課題に対する気づきや思考をうながすために「課題をつかむ」が設けられている。 ○学んだことを元にして、生涯にわたり、自らの課題を考えることができるよう、章末の「章のまとめ」の中に「学びに向かって」が設定されている。
学研教育みらい	○課題解決的な学習の進め方を示し、主体的・対話的で深い学びにつながるよう、「課題をつかむ」から「まとめる・深める」の流れで構成されている。 ○章末にある「章のまとめ」の最後に「生活への活用」として既習内容から、自分自身の生活に生かしたい事について考えることができるような学習例が掲載されている。
その他の主な意見	
<p>・4者の中の3者がAB判で、大日本図書だけB5変形判ということで、見開きで非常に資料がまとまっていた。全体的にどの発行者もイラストや写真など資料が豊富である。</p> <p>・学習するにあたっては、生徒が自分自身の生活における健康安全について考えることができるように支援することが必要である。各者とも、自身の健康安全について考え、他者に表現できるような学習活動の工夫がされていたと思う。学研教育みらいは、具体的に意見を出し合う「考える・調べる」コーナーや学習したことをもとに、話し合う「まとめる・深める」コーナーが設定されていた。また、グラフを読み取り、意見を出し合う活動を取り上げた「考える・調べる」も設定されており、生徒が筋道を立てて学習ができるよう配慮されていると感じた。</p> <p>・大修館書店では、話し合う場面や発表する場面を取り上げた「学習のまとめ」が設定されていた。本文に関連する知識を取り上げた「掘り下げる」、「クローズアップ」、「特集資料」のコーナーが設定されていて、「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫であると感じた。</p> <p>・誰にとっても使いやすく、生徒の学習上の困難さにも応じた工夫についてそれぞれ特徴があった。東京書籍は、グラフや図を読み取る際の補助となる説明が「ポイント」として示されていた。また、見通しを持って学習を進める4つのステップで校正されていた。さらに、中学校以降で学習する常用漢字にはふりがなが振られており、生徒の学習補助に役立つと感じた。大修館書店は、「課題をつかむ」の蘭で○×で答える内容やクイズ形式を採用している。これは、生徒が各時間の課題を理解することで見通しを持った学習につながる良い工夫だと感じた。</p> <p>・感染症の予防についても記載されていた。現在新型コロナウイルスについて話題になっている。教科書にはなかなかそこまで含むことができないと思うが、そういった内容に関して、これから詳細が分かってくれば、学校単位、教育委員会から、このような話を踏まえて、子供たちへ共通の認識で伝えてもらえると思うと保護者としては助かる。</p> <p>・各者ともマーク等を使用し他教科との関連等について示されていた。大日本図書、大修館書店は、「理科、技術・家庭科、社会科」の学習内容について示されている。東京書籍、学研教育みらいは、「理科、技術・家庭科、社会科、道徳科」の学習内容が示されている。学研教育みらいは、巻末に体育実技や各教科などとの関わりを示した「キーワードで見る保健体育の学習内容」が見開きの表で示されており、生徒が知識や情報を関連させながらより深く学ぶための一助になると感じた。</p> <p>・各者とも生徒にとって理解が深まるような構成上の工夫や配慮がされていると感じた。学研教育みらいは、「学習の目標」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」という目標や学習活動が設定されており、言語活動を通して他者と関わるという上で非常に助けになる。また、章の最初に学習の見通しが持てる資料が掲載されており、実際の授業展開に生かすことができると感じた。</p>	

◇技術・家庭（技術分野）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○技術の見方・考え方が一目でわかる「最適化の窓」が設けられている。また技術の最適化について漫画でまとめられている。</p> <p>○理解を深めることができるよう、各内容の冒頭において「発見！技術の最適化」や、各ページの随所に「資料」、「技術の工夫」等が設定されている。</p>
教育図書	<p>○技術の見方・考え方を養うことができるように、「見つける」→「学ぶ」→「ふり返る」の学習の流れが明確に記載されている。</p> <p>○理解を深めることができるよう、各ページに「スゴ技」、「技ビト」、「資料」、「知的財産」等が随所に設定されている。</p>
開隆堂出版	<p>○巻頭のガイダンスで技術の見方・考え方について触れ、各章については、学習の動機づけ、基礎・基本の確実な習得、問題解決の実施、学習内容のふり返りや評価・活用を重視した構成がされている。</p> <p>○理解を深めることができるよう、各内容の冒頭において「技術の歴史」の年表が、各ページの随所に「探究」、「豆知識」等が設定されている。</p>
その他の主な意見	
<p>・大きさは3者でやや違いはあるが、文字の大きさや資料の扱われ方などで、大きさによっての差というのではないと感じた。各者とも見開き2ページを基本として学習を設定しているのも、非常に見やすい。また、各編を3つの区切りで構成されているという点も見やすくなっている。教育図書については、別冊で技術ハンドブックがついており活用ができるのではないかと感じた。</p> <p>・教育図書については、別冊に基本技能、基礎技能というものが例示されていて、制作工程を示すイラストなどで大変分かりやすい。実技技能の内容説明、実際に作業する生徒の目線からの写真を用いて示されている。東京書籍は、ミカンのキャラクターの「ミカタン」などといった親しみやすいキャラクターが登場して、学習の見通しや技術の見方・考え方を深めるための補助をしていると思った。技術分野ということで、作業についての安全面の注意は欠かせない。各者とも安全面については、安全マークを表示して注意を促すなど、具体的に分かりやすく説明していた印象を持った。</p> <p>・他教科のつながりという点で、東京書籍は、各編の最初のページに、何の教科とつながっているかということが示されている。開隆堂出版も各編最初のページに、その編の中にある中学校の他教科の関連という形でまとめられて掲載されている。他教科マークがついていることで、生徒が学習を進めるとき、他教科のつながりでより深い理解につながるという点ではいいと思う。また横断的な教育計画を立てる上でも生かされる内容ではないかと感じた。</p> <p>・「技術の見方・考え方」や「生活の営みに関わる見方・考え方」についても各者それぞれに工夫がされていた。東京書籍は、ガイダンス資料にある技術の見方・考え方が示された「最適化の窓」や「ミカタン」のコメントでヒントを出す工夫がされていた。教育図書では、技術のプラス面とマイナス面ということを示されていた。いずれも授業展開の中で活用できるのではないかと感じた。</p> <p>・各者とも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされていた。東京書籍では、話し合う対話的な活動を取り上げた「活動」や、キャラクターが対話することで設計要素を検討できるように例示した「問題解決例」が掲載されている。教育図書の「やってみよう」では、「自分が設計をして政策をした作品を、グループで発表しよう！」の中で対話を例示した「友だちからのコメント記入欄」が掲載されており、生徒の対話につながる良い工夫であると感じた。</p>	

◇技術・家庭（家庭分野）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○学校や生徒の実態に応じた実践的・体験的活動ができるように、調理実習では複数の参考例が設けられていると共に、生徒の工夫のヒントとなる、他の食材を利用した「私のオリジナル」が紹介されている。</p> <p>○実習や生活の実践に必要な、確実に身に付けたい基礎的な技能が「いつも確かめよう」にまとめて掲載されている。</p>
教育図書	<p>○「見つめる」、「学ぶ」、「ふり返る」の3つの流れで実践的・体験的に身に付けた知識・技能を生かして、課題解決学習につなげられるよう構成されている。</p> <p>○課題解決学習の流れが教科書全体を通して統一されており、小題材ごとに設けられた「学びを生かそう」では、課題設定の手助けとなる「課題設定のヒント」、「私の課題例」が示されている。</p>
開隆堂出版	<p>○調理実習のページでは、見開き右上のミニ写真が、興味・関心を引き出す役割をすると共に、科学的にとらえる目を養うために「調理方法Q&A」として科学的根拠が示されている。</p> <p>○学習した知識・技能を実生活の中で活用できるような総合的な課題として、「生活に生かそう」が設定されている。</p>
その他の主な意見	
<p>・各者とも多様な写真や図などで構成されており、それぞれ工夫が感じられた。東京書籍は、調理実習例が横の流れでレイアウトされ、開いた状態で学習ができる。布を用いた製作では難易度に幅をもたせた実習例が掲載されてわかりやすいと感じた。教育図書は、調理実習の流れが縦で示され、題材が見開き1ページに収められていた。布を用いた製作では「私のアレンジ」のコーナーが設けられていた。また、巻末の献立シートを使ったワークが掲載されている。開隆堂出版は、調理実習のページが横の流れで実習のプロセスが示された。食物アレルギー物質について意識できるように、色で部分的に抜き出されていた。</p> <p>・他教科との関連について、東京書籍と教育図書は、社会科や保健体育科、理科と関連させ、災害についてそれぞれ『Dマーク』『リンク』マークとして分かりやすく示されていた。開隆堂出版では、理科や保健体育と関連したことを示すマークが、『体に入った栄養素のゆくえ』などにおいて示されている。</p> <p>・各者とも生徒同士が学び合う場面として、話し合ったり、発表したりできるよう「幼児とのよりよいかかわり方」等の身近な課題が設定され、テーマを考えやすいように工夫されていた。</p> <p>・家庭分野では、実習・製作など実践的・体験的な活動を通して知識・技能を身に付けるだけでなく、それらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図ることが大切である。調理実習等において、東京書籍では、複数の参考例が設けられていた。また、生徒の工夫のヒントとなる「私のオリジナル」が紹介されていた。開隆堂出版では、「調理方法Q&A」として科学的根拠が示されていた。教育図書では、「見つめる」、「学ぶ」、「ふり返る」の3つの流れで課題解決学習につなげられるように構成されており、生徒が課題を設定する際に見通しが持ちやすいので使いやすいのではないかと感じた。</p> <p>・情報活用能力の育成については、東京書籍では、情報を収集及びその活用を検討し、意思決定をするプロセスが5つの段階で示されていた。教育図書では、課題の設定、解決方法の検討、情報収集、比較検討、決定、消費、評価と見直しを行う題材が示されていた。開隆堂出版では、情報の発信源、商品購入に必要な情報と活用の仕方、本当に必要な物資・サービスを購入するプロセスが示されていた。</p> <p>・社会の変化に対応した課題として、東京書籍では、幼児や高齢者、外国の人、障がいのある人などについて『家庭生活と地域のかかわり』などに題材が示されていた。開隆堂出版では、乳幼児や高齢者、障がいのある人や外国の人、LGBTなど『多様な人びとが暮らす地域』に写真などで示されていた。教育図書では、児童憲章や子どもの権利条約、児童虐待の防止、ユニセフの取組などが『子どものすこやかな成長のために』に取り上げられており、写真や絵などでわかりやすく示されていた。</p> <p>・日本の伝統や文化に関する教育の充実として、東京書籍は、衣、食、住について伝統的な日本文化が写真や地図などで取り上げられていた。教育図書は、地域の食文化や地産地消、全国各地の郷土料理、和食の調理、地域の伝統的な器などが取り上げられていた。開隆堂出版は、郷土料理や地域の食材、各地の伝統工芸品などが取り上げられていた。</p> <p>・各者ともそれぞれの巻末には、問題解決における具体的な実践例が示されている。特に、教育図書は、各章末にも『学びを生かそう』の中で「課題設定のヒント」や「私の課題」が示されており、関連させて生徒が考えやすいように工夫されていると感じる。</p> <p>・家庭分野ということで、料理についてだけでなく、家族環境をよりよくする方法についても具体的に書かれていた。我が子は中学生で思春期でもある。特に問題は無いが、何かあったときに、書かれている内容を参考にさせてもらえるといいかなと思った。</p>	

◇外国語（英語）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○聞く・読む・話す（やりとり・発表）・書くの能力を、目的をもってバランスよく習得できるよう、「Goal」や会話の状況が明示されている。読んだことについて考えたり、発表したりする等、思考力・判断力・表現力を総合的に身に付けることができるよう構成されている。</p> <p>○他教科の内容を英語で学ぶページが設けられ、1年生で国語の物語、2年生で技術家庭の食品表示や情報技術、3年生で公民</p>
開隆堂出版	<p>○「Program」の始めに文法事項がイラストと音声で示され、ポイントを意識して言語活動が行えるよう構成されている。また目的や相手意識をもったコミュニケーション能力を身に付けることができるよう、場面に応じて即興でやり取りをする等の活動が設定されている。</p> <p>○自国及び他国の伝統や文化を尊重し、国際社会に寄与する感性を育てることができる教材が、学年ごとに複数設定されている。</p>
三省堂	<p>○「Part」ごとに身に付けるべき言語材料が示されており、学習内容を意識して言語活動に取り組めるよう構成されている。必要な情報を聞き取ったり読み取ったりする、分かりやすく書き発信する等、様々な言語活動に、繰り返し取り組めるよう構成されている。</p> <p>○他国との違いを認め、自分の可能性を広げることができるよう、1年生で車いすバスケットボール、2年生で将来の夢、3年生でキング牧師が取り扱われている。</p>
教育出版	<p>○音声で理解したことを生かして、本文の場面に続く会話をペアで考えたり書いたりする等の言語活動が繰り返し取り入れられている。「Tips」等で各技能を高めながら、3年間を通して英語を発信する力が身に付けられるよう構成されている。</p> <p>○1年生では標識や記号、ゴミ問題、地球温暖化問題、2年生では文化によるジェスチャーの違いや手話、職場体験、3年生では猛禽類の保護、食品ロス等、身近なものから社会的なものまで視野が広がるような題材が扱われている。</p>
光村図書出版	<p>○「Part」で基本事項の理解を深め、複数の技能を生かすグループ活動を通して、場面に応じて考え、判断し、表現する能力が身に付けられるよう構成されている。また、日々の活動をサポートする帯活動や即興的なやり取りのトレーニング等が設けられている。</p> <p>○英語を使う資質・能力を育むために、1・2年生では世界で実際に活躍する人や多様な文化を紹介する「World Tour」、3年生では「Unit」で世界の学校生活や若者たちの活動を紹介する教材が設けられている。</p>
新興出版社啓林館	<p>○聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書くの一定の流れの中で、5領域の技能がバランスよく習得できるよう構成されている。特に、自分のことや身の回りのこと等について、即興で話す活動が繰り返し設定されている。</p> <p>○グローバル化する社会の中で、生徒が実際の言語の使用場面を想起し、英語話者の広がりや多様性を実感できるよう、様々な国のキャラクターが設定されている。</p>

その他の主な意見

・各者とも、1年生のはじめの部分で、小学校からのつながりを意識した構成となっており、聞くことや話すことを中心に扱っていた。また、アルファベットなど文字に親しむ工夫もされていた。東京書籍は、小学校で習った単語が各ページで紹介されており、小学校から系統立てて学習しやすい。開隆堂出版では、「小学校英語を生かす」という単元があり、小学校で慣れしんできた表現が例示されていたので、生徒も無理なく学習できるのではないかと感じた。三省堂は、小学校で学んだ言葉の使用場面、文字の読み方などを振り返り、文法や文の構造が整理されていたり、卵型のアイコンで見やすくなっていたりしていた。

・小学校では、主に会話でのやり取り、黒板に書いたものを読む、書く活動は少しずつ入ってくる。文になったものをまとめるというのは、なかなか小学校段階ではない。1年生の最初は、文字になれるということから、徐々にまとめた英文を読んだり書いたりする学習ができると、無理がないと考えられる。新興出版社啓林館は、1年生の「Let's Start」で、小学校で学習してきた語彙や表現について聞くこと・話すことの活動で復習できるように構成されていた。また、1年生で扱う言語材料や表現は、小学校で学習してきたものが基盤となっていた。

・紙面を開いて学習する際の全体の中での配列や文字の見やすさ、教室の机の上に置いて開いたときの使いやすさ等が重視されていると思った。東京書籍はA判ということで、生徒が机に教科書とノートを開くと、やや大きめなのかなと感じた。三省堂は、1年生のレッスン3までは、ノートを開かなくても、簡単な文章などを教科書に書き込んで学習ができるようになっていた。

・小学校で習ってきた英語を踏まえて、中学校では実際の場面でコミュニケーションが図れる技能を身につけることも大切であると思う。教育出版のマスキングシートがついている巻末の資料や新興出版社啓林館では、即興的なやり取りができるような活動等が掲載されていて、高等学校への接続も意識されていると感じた。光村図書出版と開隆堂出版は、習った内容を自分の言葉で伝える活動が設定されていた。三省堂は、英語を使用する場面を意識した会話や表現が取り入れられていて、実際のコミュニケーションに近い設定がされているので、非常に使いやすいと感じた。

・内容が生徒の発達段階や興味・関心に即した効果的な題材が扱われているかということは非常に大切と感じる。光村図書出版は、各レッスンで扱う話題が多岐にわたっていて、特に3年次の「災害時に備える」という単元では、日本にいる外国人に向けての情報発信が自然にできるようになっていた。また、三省堂は、他者、他国との違いを認め、自分の可能性を広げることができるように、例えば、1年生では車椅子バスケットボール、2年生では将来の自分の夢、3年生ではキング牧師について取り扱われていて、読み物教材がとても豊富で、読み応えがあると感じた。

◇特別の教科 道徳（道徳）

令和2年度伊勢原市教科用図書採択検討委員会 調査報告及び検討内容の概要	
東京書籍	<p>○巻頭の「道徳の授業はこんな時間に」では、授業の進め方や考え方の道筋が示されている。また、生徒が授業で自分の気持ちや考えを表現しやすいよう、巻末に「心情円」が設けられている。</p> <p>○各教材には、書き込んだ内容を話し合いの材料として活用できるように「つぶやき」欄が設けられている。また、各教材の末尾に、自己を振り返るために「自分を見つめよう」という発問が設けられている。</p>
教育出版	<p>○道徳的課題について、自分事として考えることのできる活動として「やってみよう」が設定されている。</p> <p>○教材の末尾には、物事を自分に引きつけて考えたり、多面的・多角的に考えたりする助けとなる「学びの道しるべ」という発問が設けられている。</p>
光村図書出版	<p>○教材で学んだ道徳的価値を、活動を通して確かめ、さらに深く実感を伴って考えることができるように「深めたいむ」が設定されている。</p> <p>○教材の末尾には、生徒が多面的・多角的な見方、考え方ができるように「見方を変えて」という発問が設けられている。</p>
日本文教出版	<p>○書く活動を通して生徒が思考をより深めることができるように別冊「道徳ノート」がある。</p> <p>○教材で示される内容等をより多面的・多角的に考えることができるよう、関連する教材の全部に「プラットフォーム」が設定されている。</p>
学研教育みらい	<p>○教材から、生徒が自らへの問いを見つけ、課題や問題に対して主体的に向き合うことができるよう、巻頭に「考えを深める4つのステップ」が設定されている。</p> <p>○教材の内容項目に即した関連情報により、生き方の選択肢が増やせるよう、「クローズアップ」が設定されている。</p>
廣済堂あかつき	<p>○別冊「中学生の道徳ノート」には、記述を通して自己を深く見つめる学習をうながし、授業で考えたことを時系列に沿って35時間分記録することができる「学習の記録」が設けられている。</p> <p>○道徳的価値や人間としての生き方について示唆に富んだ格言や名言に触れることで自らの見方・考え方を広げる手掛かりとなるよう、教材の末尾には、先人や現在活躍している著名人の言葉が掲載されている。</p>
日本教科書	<p>○道徳科で自分が育んできたものを改めて客観的に把握し、次年度に向けての目標を立てたりこれからの人生に向けての思いを確認したりするために、巻末に振り返りのワークシートが設定されている。</p> <p>○各教材で「考え、話し合ってみよう」の欄が設けられ、話し合う視点となる発問が用意されている。議論をすることを前提とした、答えが一つではない道徳的な課題を取り上げた教材が各学年で設定されている。</p>

その他の主な意見

・教科書の大きさについては、2通りの大きさがあった。教育出版、光村図書出版、日本文教出版、日本教科書、の4者はB5版であり、コンパクトなサイズであり、使いやすい印象である。東京書籍、学研教育みらい、廣済堂あかつきの3者は、AB版で、写真やイラストが大きくて見やすい印象である。

・別冊についてであるが、各教科書には別冊があるものもないものに分かれていた。別冊があると、生徒一人ひとりの記録となり、生徒が考えたり、振り返ったりすることができる。また、別冊で教員が評価をすることができるようになっている。別冊があるのは、日本文教出版、廣済堂あかつきである。今は、別冊がない教科書を使っている。別冊ではなく、教員が作成したワークシートや生徒のノートを活用しているという面から、これまでと同様に別冊がない方が使いやすいと考える。生徒の実態に合わせて授業を工夫し、教材を作成することができるので、別冊がない方が使いやすいのではないかと。また、ワークシートを先生自らが作ることが、教材を作成することで先生自身も授業が深まるということも考えられる。別冊がないのは、東京書籍、教育出版、光村図書出版、学研教育みらい、日本教科書である。その中でも現在使っている東京書籍は、読み物と同じページに書き込める欄が多くあり、考えたことや思い浮かんだこと、つぶやきをメモしたり、まとめたりするときに活用しやすいと感じた。

・巻頭には、各教科書とも工夫して道徳の授業での学び方がわかりやすく書かれている。東京書籍は、考え議論する道徳の授業の流れや話し合いの手引きが掲載されていて、話し合いをする際に役立つと感じた。教育出版、光村図書出版、学研教育みらいは、学びを深めるための流れや手引き、手立てがわかりやすく掲載されていた。廣済堂あかつきは、自分自身の見つけ方が掲載され、生徒が自分自身で考えるときのヒントになると思う。日本文教出版は、道徳の議論の仕方についての視点がわかりやすく掲載されている。

・思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮について見てみると、話し合いを通して様々な考えにふれたり、振り返りを通して自分の考えを深めたりするコーナーが各者とも設定されている。印象的であったのは、特に東京書籍、教育出版、日本文教出版である。役割演技や体験的な活動を通して、人と関わり、複数の人物の多面的・多角的な考えにふれられるように工夫されていると感じた。頭の中だけでなく、実際に体験することによって、さらに道徳的諸価値について日常生活に結び付けて考えられるようになると思う。

・様々な現代的な課題に関する指導の充実について、どの発行者をとってみても、様々な課題についてそれぞれ取り上げている。その中でも、いじめについてすべての発行者が取り上げている。東京書籍、教育出版、日本文教出版は、複数の教材をユニットとして合わせて考える内容になっており、よいと思った。光村図書出版は、学年前半にいじめについて教材が配置され、学級作りや人間関係作りに役に立つと思った。

・これまでの実践で感じたことは、読み物の文章が多いと読んで理解することに時間がかかりすぎてしまい、道徳的価値について考えたり、自分自身を振り返ったりする時間がとれないということである。文章の量がほどよく、また、理解の助けとなる写真や挿絵、図などが工夫されているものがよいと思う。どの発行者も、読み物教材に挿絵や写真を入れて内容を理解しやすいようになっている。その中でも特に、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、学研教育みらいは、写真や挿絵、図などにより文章がとてもわかりやすくなっていた。